

酒々井町

郷土研究会会報

第132号

平成21年4月1日

酒々井町郷土研究会

広報部

失われ行く

自然と植物たち

大沢 博

酒々井中学校門前の畑から、冬の強い風の後に縄文土器のかげらが見られると言う。七〇〇年〜八〇〇年前前に縄文人が住んでいた証である。また、古代人(一三〇〇年〜一四〇〇年前頃)の生活跡と言われる尾上平第一、第二古墳の遺跡が残されていた所でもある。永い歴史を持つ祖先の居住地であり、更に、江戸時代には、周辺が幕府直轄の野馬の放牧場があったところでもある。

この中学校の裏にある里山と谷津田の一带が、酒々井インターチェンジの関連で開発が進み貴重な自然が失われつつある所である。また、こ

こは私たちが野草観察会を行った場所でもある。こんな近い所に、全く手つかずと言ってよい自然の里山と谷津田が残っていた。

薄暗い杉の林の中を抜けて見る自然の景観は、何度訪れても心に残る印象深いところであった。戦後の緑化政策で植えられたという杉は、溝腐れ病に侵され幹に洞(うろ)ができ倒壊寸前のももある。また、藤蔓に巻きつかれ著しく成長を阻害されていくものもある。

谷津田にはどこから湧き出しているか分からないが、硫化鉄を含む清らかな水が流れ出ていた。稲作に適した水だという。数百メートル続く幅の狭い谷津田には、一か所だけ最近まで稲作を続けている農家があった。そういえば、一昨年の秋初めてこの農家の人に会ったとき、「稲作は今年が最後だよ」と寂しげに言っていたのを思い出した。それが昨年は、里芋畑に変わっていた。開発を見越

しての事であったと思う。平成二十一年早春には、両岸の山土手が崩れ、谷津田が埋められて真ん中から分断された形になってしまった。



現在の谷津田付近

開発前の谷津田

この辺は、数十年前まで稲作も盛んで、里山の手入れも行き届き自然と人との共生がバランス良く保たれていたと聞く、植林もその頃盛んに行われ現在の雑木林となっている。

谷津田を囲む両岸の傾斜地には、杉の他、クヌギやコナラ、シラカシ、

コブシ、クマノミズキなどが生い茂っている。下草は、殆ど刈られず野籜が群生していて人の入れない所が多い。たった一本ある狭い農道も途中で行き止まりである。その先は全くの荒地で人の入れる余地のない所である。

農道沿いの山土手や田の畔には、四季折々にいろいろな草花を見ることができ野草の楽園であった。トリカブト、キンミズヒキ、クサボケ、ホタルカズラ、ツリガネニンジン、シラヤマガク、ヤマシロギク、ワレモコウ、キツネノカミソリなど挙げればきりがない。また、湿地の中には、タコノアシを始め、イボクサ、コケオトギリ、イ（栽培種はイグサ）、ホタルイ、ミゾソバなども見ることができた。

開発後は、できるだけ自然の形を残せるよう、調整池を作り植物の移植など考慮して進めているという。人間が生きるためとは言え犠牲になる多くの動植物や自然に、なんとなく申し訳ない気がする。

祖先から受け継いだこの自然と環境が、子子孫孫へ伝えられるよう願うものである。

「江戸東京博物館方面」

桂 啓子

去る十二月三日日本の参加者二十四名天気にも恵まれ和気あいあいと両国駅に着きました。

はじめに旧安田庭園へ、元禄年間に大名庭園として築造され、いろいろな灯笼や石塔がありました。水辺の道、磯渡りの踏み石と素敵な景色、のんびりと散策しくつろぎのホットタイム。

予定外では横網町公園内の東京慰霊堂へ、館内のパネルを見ながら会員の方の東京での体験話を聞き、改めて戦争の恐ろしさを教えていただきました。

次に江戸博物館入口付近で冬桜が私達を迎えてくれました。

十一時頃入場し岡田会長の挨拶。それぞれに分かれてボランティアガイドの説明に耳を傾け、江戸ゾーンの日本橋を渡り武家屋敷、江戸城本丸、赤穂浪士の松の廊下、東海道四谷怪談のからくり模型の実演などなど。東京ゾーンでは、鹿鳴館、ニコライ堂、銀座煉瓦街、朝野新聞社の模型。

江戸東京の歴史や文化に触れて

一日のスケジュールも無事終わり家路に着きました。



旧安田庭園

「香取方面」見学

前田 國廣

一月十三日、総勢三十三名はJR酒々井駅より電車に乗り途中筑波山を眺めながら香取駅に着き「香取神宮」まで歩いて行きました。

「香取神宮」は下総国一の宮と言われていますが、この「一の宮」とは律令制の時代に国司が任国内の諸社に巡拝する慣わしがあり、一番目に神拝した神社との通説があります。千葉県では安房国の「安房神社」(館山市)、上総国の「玉前神社」(長生郡一の宮町)がある。

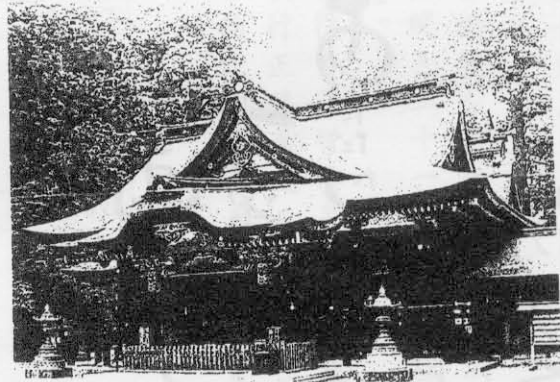
参道を登ると右上の方には元巨人軍・城之内邦雄が寄進した灯笼がある。これは城之内邦雄が昭和三十七年にセリーグの新人王に輝き、寄進したものである。

総門、楼門、拜殿、本殿と高木副会長のつぼを押さえた解説を聞き納得する。古くから国家鎮護の神として皇室から御崇敬が最も篤いと言われる三神宮(伊勢・香取・鹿島)の一つである香取神宮の散策を楽しんだ。

その後岡田会長により解散宣言がなされ、自由行動になり、まだ見学したことがない宝物館を拝観料三百円支払い見学する。私の感想を言えば、これだけの国宝や重要文化財が多数あるのに、陳列方法や説明の仕方に一工夫あればと思いました。

香取神宮では毎年四月十五日に「神幸祭」という大きなお祭りがあ
る。氏子二百人が平安時代の装束に
身を包み御神輿を中心に行列を行
い多数の見物人で賑わうそうです。
食事後大半の人がバスに乗り佐
原に行き、散策やお土産を買うの
を楽しみました。私は通常お土産を

わかない人間ですがこの時はどうしたことか四種類のお土産を買ってしま
い一日楽しく過ごしました。



香取神宮

「七草粥を食べる会」に

参加して

縣 広子

初めて「七草粥を食べる会」に出
席させて頂きました。七草粥と言え
ば、正月七日、御馳走(暴飲暴食)
に疲れた胃を休めるために頂くもの
と思っていきましたが、ちょうど今頃
になると生えそろう七草、味も栄養
も良く、一年の健康を願う食事であ
るとの郷土研究会の方の説明で、納
得。旧暦一月七日近くにこの会が行
われる由が分りました。

自然を上手に取り入れた食文化、
季節毎に体に良い食物を得る知恵、
美味しく食べる為の様々な調理方法
それらを行事として受け継いできた
歴史、そして先人と同じ食材を頂け
るこの町の自然の豊かさ。心のこも
った七草粥をはじめ、野草、野菜を
ふんだんに使ったお料理と共に、何
とも言えない有難さをかみしめまし
た。日本人で良かった♪酒々井の住
人で幸せ♪♪春の野草の苦味には解
毒作用があると聞きます。これで私
の心身に日頃の不摂生で大量に溜ま
った毒がなくなれば♪なんて、美味
しい思いをした上に努力と精進の足
らない考えは虫が良すぎますね。

準備や後片付け等、大変な労力を
かけて、長年このような手厚いおも
てなしを続けてこられた皆様には心
から感謝申し上げます。

普段余り意識しませんが、食事に
は様々な意味が含まれているとしみ
じみ感じました。会場のなごやかな
雰囲気、手作りの箸置きのお土産。
お腹も心も暖かな春を迎えたよう
でした。この素晴らしい会が多くの方
に広まり、末長く受け継がれて行く
事を願います。

「七草粥を食べる会」

野草部

酒々井町で採れた食材にこだわって作った七草粥とお料理、大勢の方々に喜んでいただきました。いつものことながら、摘み草、買物、調理そして会場設営など、諸準備をお手伝い下さる方々に感謝しております。



「七草粥を食べる会」

にて詠む

丸山 緑醉

- 七草や 長寿願いて 若菜打つ
- 囃し歌 声の揃いて 粥の宴
- 故郷の 香が立ち昇る 七日粥

郷土研の

みり絵

夏の方の

努力感謝

地産地消

なごり

和

凍てつても
七草粥は

あたたか
への情け

天地のめぐみ

和

正井和子氏よりお寄せ頂きました

《観察メモ》

「ツルカノコソウ」(オミナエシ科)



茎を蔓のように伸ばすことから名前がつけられたカノコソウ属、湿った竹林などに生え、早春に白い小花を開花します。咲き始めは、密集したつぼみのかたまりが「鹿の子」のようでもともかわいいものです。茎が伸びると同じ花とは思えない様子になります。本佐倉城跡セツテ

イ山に、群落があり、ます。杉林や、湿った場所に見られます。

会計報告	
＜七草粥を食べる会＞ (21.2.13)	
参加者 76名	招待者 10名 合計 86名
会費 800円	
収入	74,600円
会費収入	800円×76名=60,800円
祝儀等(会費として)	13,800円
支出	71,853円
材料費	34,661円
諸雑費	37,192円
差引	2,747円 (野草会計へ)

酒々井町郷土研究会 平成21・22年度役員・運営委員名簿

職名	氏名	住所	電話
顧問	青木 朝次		
会長	岡田 利光		
副会長	高木 正浩		
	寺本 恵美		
会計	丸山 正義		
	(兼任) 久我 かず子		
監事	行武 政市		
	執行 正勝		
運営委員(総務部)	久我 かず子		
(広報部)	穂満 弘道		
	木村 雍子		
	* 前田 國廣		
(研修部)	(兼任) 寺本 恵美		
	斉藤 ヨシ		
	(兼任) 執行 正勝		
	浜口 信義		
	古川 好夫		
	菱輪 光正		
	(兼任) 行武 政市		
	* 桂 啓子		
(野草部)	犬島 正子		
	石井 康子		
	大沢 博		
	近田 トメ子		

第三十三回定期総会報告

好天に恵まれた一月二十五日午後一時三十分より、中央公民館研修室において第三十三回定期総会が開催されました。岡田会長挨拶、そして小坂町長の来賓ご挨拶を受けた後、平成二十年度事業報告と決算報告が承認され、引き続き二十一年度の事業計画案と予算案も提案どおり承認されました。役員改選では、別途名簿の通り、前年度役員運営委員の全員留任及び斉藤ヨシ氏の監事退任と行武政市・執行正勝両氏の監事就任が承認されました。また、前田國廣・桂啓子両氏に新しく運営委員を委嘱したことを報告し、閉会しました。

(注) *前田及び桂の両委員は、21年1月開催の運営委員会で選出の上、委嘱しました。

平成21年度 事業計画

酒々井町郷土研究会

回数	事業名	1期			2期			3期			4期		
		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
1	定期総会	○											
2	会報発行	○			○			○			○		
3	講座・学習会	郷土史講座							○				
		町内史跡巡り					○						
		史談会		○	○		○	○	○		○		○
4	研修・見学会	県外見学会					○						
		日帰り見学会	○								○		
		名勝探訪			○			○			○		○
5	野草の会	七草粥を食べる会		○									
		野草観察会				○				○			
6	小絵馬展							○					
7	役員会・運営委員会	○	○			○		○				○	

見学

案内

春の野草観察会



芝山方面

四月二十八日(火)
雨天決行

隣の公園の現状と自然観察を目的に、足を伸ばしてみます。

「芝山水辺の里」とその周辺の野草を観察し、「さくらの山公園」では昼食を兼ねます。(町バス利用)

県外見学会

新潟県(六日町)方面

五月十二日(火) 十三日(水)

宿泊 越路荘

電話 025-772-2420

大河ドラマ「天地人」の主人公、直江兼統の生誕地を訪ねます。

坂戸城跡(国指定文化財)

戦国時代、山全体が山城であり、上杉謙信ゆかりの城跡で、上杉景勝、直江兼統の居城でもありました。坂戸山頂には、本丸と屋敷跡、中腹の

中屋敷、山麓の城主館・家臣屋敷跡などが今も残っています。

▼雲洞庵

養老元年(七一七)、藤原氏の尼寺として開山。その後衰退し、室町時代に曹洞宗の寺として開創されました。本堂は上杉憲実によって建立され、江戸時代に再建されました。

▼浦佐毘沙門堂

大同二年(八〇七)、將軍・坂上田村麻呂がこの地に御堂を建て守護仏の毘沙門天王を祀ったといわれています。千二百年の歴史があります。

▼鈴木牧之記念館

「北越雪譜」の著者・鈴木牧之の記念館。

名勝探訪

皇居方面

六月三日(水)

雨天代替六月九日(火)

緑の木々と水が織りなす皇居周辺を散策します。

九段下駅を出て急な坂道を上ると靖国神社の巨大な鳥居がそびえています。砂利が敷きつめられた参道を通り参拝します。

北の丸公園では、大木の下で昼食をとります。

皇居東御苑では、本丸跡や松の廊下の碑などを見ます。

外苑では老松の枝ぶりを見、激しい車の流れに注意しながら日比谷公園へ向かいます。公園ではドイツ式の大噴水や辺りの花々などを眺めながら帰途に着きます。

郷土研

トピックス!

★二月七日、県郷土史研究連絡協議会主催の郷土史フォーラムにおいて岡田会長が「酒々井町郷土研究会の近況」について発表しました。

★野草部が資料集「酒々井北部地区の植物(伊藤編)」をまとめました。

昨年、年間を通じて足を運び、現地の草花を丹念に写真撮影し整理した労作です。(酒々井町図書館でご覧になれます。)

★公民館より、四月からの新講座「野草観察教室」の講師派遣を依頼され、野草部の犬島、大沢両氏が九月まで担当します。

< 郷 土 研 日 誌 >

月 日	活 動 内 容	参加者
平成20年		
12. 24	会報印刷	4
12. 27	会報発送 (第131号)	15
平成21年		
1. 9	平成20年度会計監査	7
1. 13	日帰り見学会「香取方面・初詣」	33
1. 15	運営委員会 (総会準備)	16
1. 20	総会資料の印刷・製本	15
1. 25	第三十三回定期総会	70
2. 4	会報編集打合せ (第132号)	4
2. 7	史談会	12
	県郷土史フォーラム(於千葉市)	1
1.29~2.9	七草粥の準備 (摘み草、買物等)	10
2. 12	七草粥の準備 (調理下拵え)	13
2. 13	七草粥を食べる会	86
2. 17	研修部会	7
2. 25	会報編集会議	5
2. 27	運営委員会	18
3. 6	会報編集会義	5
3. 7	史談会	10
3. 10	名勝探訪 (市川方面)	39
3. 11	会報編集会議	6
3. 17	会報編集会議(午前)	5
	勉強会(町内史跡巡りコース下見)	10
3. 24	会報編集会議・校正	5
3. 26	会報編集会議・最終校正	5



町内史跡めぐり

尾上方面

五月十七日 (日)

小雨決行

新緑の一日、歴史の町酒々井を散策してみませんか。昨年のようにグリーブでご案内します。
東光寺は鎌倉時代創建の真言宗のお寺で、町制百二十周年を迎える酒々井町の最初の町議会が本堂で開かれたところです。
下台の麻賀多神社は印旛沼東南部の十九社の一つで、五穀を司る農業神が祀られています。
総合公園にある小盛田古墳は大型

の前方後円墳が作られなくなった七世紀末の長方墳です。
住吉神社の祭神は航海の神ですが、田の神としての性格もあると言われています。
正福院は真言宗東光寺の末寺で、火災で焼失する前は大きなお寺でした。参道入口には江戸時代造立の笠付六角形の六地藏があります。
墨分教場は昭和五十年まで、近在の小学校一年二年生が学んでいたところでした。
泉光院は真言宗文殊寺の末寺でしたが廃寺になっています。
安政三年の文書によれば、境内五六〇坪のお寺でした。

訃報

元運営委員の福田照子氏には
一月三十一日(享年八十一歳)
元運営委員の高橋喜重氏には
三月六日(享年九十五歳)
ご逝去されました。長らく郷土研究会の運営にご尽力いただきました。謹んでご冥福をお祈りいたします。

あとがき

酒々井小の児童達が、本佐倉城跡や町の史跡、伝統の獅子舞などについてまとめ、発表を行ったと聞きました。子供達が自分の住む町に興味を持ち、昔を振り返って考えてくれることは、頼もしい限りです。
我が郷土研も、こんな活動に負けないよう、新しい事業計画に沿って具体的な活動を始めます。
県外見学では、大河ドラマ「天地人」の世界を訪れます。激烈な戦国時代の舞台の一つを検証しましょう。皆様のご参加をお待ちします。
今年から運営委員が二名増員し、戦力アップです。委員の誰にでもお気軽に声を掛け、ご意見やご要望をお聞かせください。そして我が町の史実を後世に繋ぐため、貴重な情報のご提供をお願い致します。

郷土研行事案内

平成21年4月～6月

	4 月	5 月	6 月
史談会	休 講	2日(土) 13:30 中央公民館会議室 「和田のむかし」⑰ 講師：高橋健一先生	6日(土) 13:30 中央公民館会議室 「和田のむかし」⑱ 講師：高橋健一先生
野草観察会	4月28日(火) 雨天決行 観察場所 芝山方面(芝山水辺の里とその周辺) 町バス利用 定員 33名 参加費 500円(保険料・資料等) 集合時刻・場所 9:20 中央公民館前広場 持ち物 弁当・飲み物、敷物等各自持参 帰着予定 15:30頃 ≪申込受付 4月10日(金) 9:00～10:00 中央公民館ロビー≫ *キャンセル 実施日の3日前まで、犬島へご連絡下さい。		
県外見学会	「六日町方面」 5月12日(火)～13日(水) 参加費 22,000円(観光バス利用) 定員 40名 宿泊所 越路荘 〒949-6635 新潟県南魚沼市小栗山346 Tel. (025) 772-2420 集合時刻・場所 7:00 中央公民館前広場 コース 第1日 中央公民館—佐倉IC(東関道・首都高・関越道)—湯沢IC—湯沢 <昼食>—坂戸城跡—愛・天地人博南魚沼—上田長尾氏史跡公園 —六日町温泉(宿泊所:「越路荘」) 第2日 宿泊所—雲洞庵—越後浦佐毘沙門堂(吉祥山善光寺)—鈴木牧之記念館 —塩沢(魚野の里)—<昼食>—石打塩沢IC(関越道・首都高・東関道) —佐倉IC—中央公民館 18:00頃 帰着予定(コースに一部変更の場合あり) ≪申込受付 4月10日(金) 9:00～10:00 中央公民館ロビー≫ *キャンセル 実施日の5日前まで、寺本へご連絡下さい。		
町内史跡めぐり	「尾上方面」 5月17日(日) 小雨決行(当日の間合せ 岡田まで) 参加費 100円 弁当・飲み物、敷物等各自持参 集合時刻・場所 9:00 中央公民館前広場 コース 中央公民館…東光寺…下台麻賀多神社…小盛田古墳…住吉神社…尾上双体 道祖神…<昼食・尾上青年館>…正福院…墨分校跡…泉光院…中央公民館 (約8キロ) 15:00頃 帰着予定(コースに一部変更の場合あり)		
名勝探訪	「皇居と靖国神社方面」 6月3日(水) 雨天代替日 6月9日(火) (当日の間合せ 7:00～7:30 寺本 まで) 参加費 100円 弁当・飲み物、敷物等各自持参 集合時刻・場所 8:20 京成酒々井駅・構内改札口前(階段上) コース 京成酒々井駅—押上駅(半蔵門線乗換)—九段下駅…靖国神社…北の丸公園 <昼食>…皇居・東御苑…大手門…日比谷公園…日比谷(日比谷線) —上野駅—(京成線)—京成酒々井駅 16:00頃 帰着予定(コースに一部変更の場合あり)		